



第44期 第2四半期株主通信 [2014年4月1日~2014年9月30日]

株式会社 アイネット と株主様を結ぶコミュニケーション誌

[目 次]

ごあいさつ …	1
第44期 第2四半期のご報告 …	2
トップメッセージ …	3
アイネットQ&A …	5
連結財務諸表の概要 …	7
トピックス …	9
会社の概況 …	10
社会貢献活動／アンケート結果のご報告 …	10
株式の状況／株式メモ …	11
配当金／株主優待制度のご案内 …	11



平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

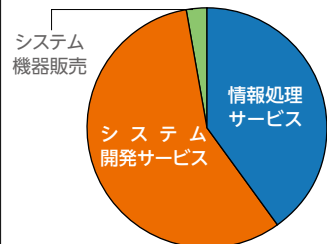
ここに、第44期 第2四半期株主通信をお届けするにあたり謹んでごあいさつ申し上げます。



代表取締役会長
池田 典義

代表取締役社長
梶本 繁昌

■ サービス区分別売上高



情報処理サービス

売上高 **4,473**百万円
売上構成比 **40.2%**
前期比 **2.4%増**

システム開発サービス

売上高 **6,362**百万円
売上構成比 **57.1%**
前期比 **1.6%減**

システム機器販売

売上高 **305**百万円
売上構成比 **2.7%**
前期比 **1.3%増**

第44期 第2四半期のご報告

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、消費税増税に伴う駆け込み需要の反動懸念があったものの、政府による積極的な金融緩和をはじめとする経済対策の継続により、企業収益や雇用情勢に改善がみられ、緩やかな回復基調で推移しました。

当社グループが属する情報サービス業界では、景気回復を背景として企業のIT投資マインドが徐々に改善へと進んでおります。その中でも、スマートデバイスやビッグデータ活用など、売上拡大や顧客サービス向上を目的にした投資への関心が高まりつつあります。

このような環境下、当社グループは、多様化する顧客ニーズに対応するため、新たなデータセンターの建設やクラウドサービスのラインナップ強化を図るとともに、業務

提携の推進による事業領域の拡大に取り組みました。

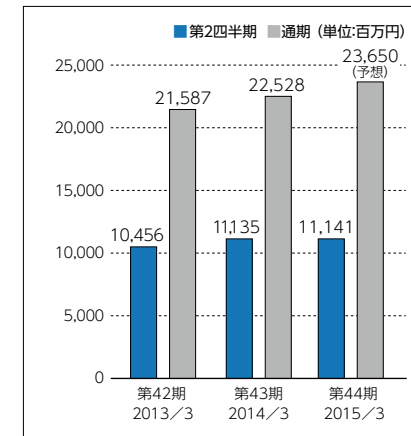
以上の結果、売上高は11,141百万円(前年同期比0.1%増)となりました。利益面につきましては、昨年10月に竣工したデータセンター関連の償却費用が増加したことなどにより、営業利益は681百万円(同18.6%減)、経常利益は658百万円(同12.6%減)、四半期純利益は395百万円(同13.5%減)となりました。

配当につきましては、継続的な安定配当を基本方針としております。この方針に則り、当期の年間配当金は1株あたり30円を計画しており、中間配当金は15円とさせていただきます。

株主の皆様におきましては、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

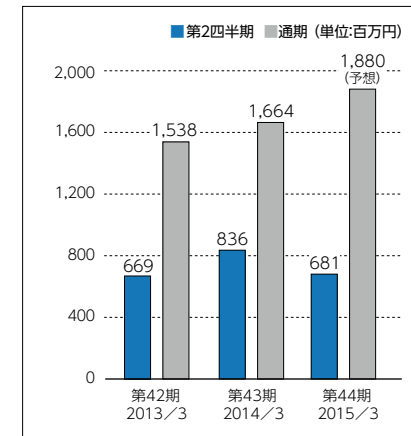
■ 売上高

11,141百万円(前期比 **0.1%増**)



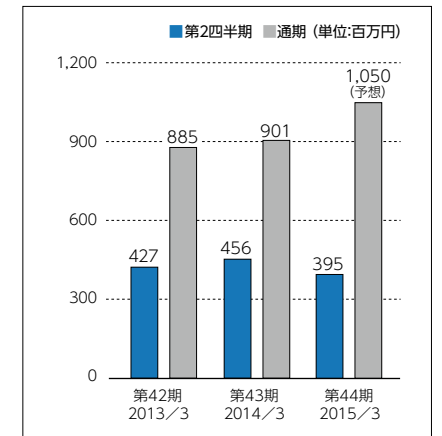
■ 営業利益

681百万円(前期比 **18.6%減**)



■ 四半期(当期)純利益

395百万円(前期比 **13.5%減**)



アイネットグループの成長への取り組みについて

中間期の業績について

当社グループの中間期の業績につきましては、売上高は4期連続の増収でしたが、利益面では残念ながら減益となりました。この結果については以下の3つの要因が影響しております。

- ① 新データセンターの償却費用が増加したこと。
- ② データセンター利用で、大口のお客様との契約が終了したこと。
- ③ データセンター新規大型商談の成約交渉が長引き、稼働が下半期にずれ込んだこと。



データセンター新設のタイミングで、②・③の想定外事項が重なり、一時的に減益となりました。しかしながら、それらを補うべく新規のお客様獲得は順調に進んでおり、③も含めて順次稼働に移ってまいりますので、今後は順調に収益が拡大する見通しであります。

市場環境と当社グループの取り組みについて

さて、当社グループが属するIT市場の環境は、国内景気回復に伴い、企業のIT投資マインドも徐々に改善方向へ進んでおります。凍結していたシステム更新に加え、売上拡大のための投資も増えてきております。更には、大手金融機関のシステム統合やマイナンバー対応などの大規模案件も相まって、市場は拡大基調で推移すると見込んでおります。また、IT活用のトレンドについても、「モバイル」や「ビッグデータ^{*1}」がキーワードとなっており、当社グループが注力しているクラウドサービスの利用は、今後益々拡大すると予想されております。

当社グループにとって、このような市場環境はまさに「追い風」であり、この風を正確に捉え、事業を前進させることで成長を確かなものとしたします。そのためにも、私が社長就任以来、継続して推進してきました3つの事業方針

「エンドユーザー志向」、「ストックビジネスの拡大」、「変化と進化」(事業方針につきましてはP5 Q&A②に詳しく掲載しておりますのでご参照ください)を引き続き実行してまいります。

特にデータセンタービジネスやクラウドサービスなどを推進し「ストックビジネス^{*2}」を拡大することは、一人当たりの売上や利益を増やすことに繋がります。そのために、データセンターなどの基盤の整備や、サービスを拡充・強化することに経営資源を集中し対応してまいります。

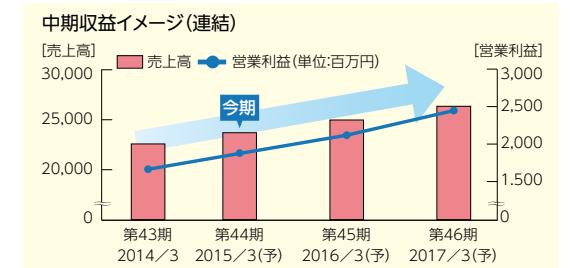
また、当社グループはこれら「ストックビジネス」を拡大させるとともに、「フロービジネス^{*3}」のシステム開発サービスなどと有機的に連携を図り、お客様にサービスを提供し続けてまいります。そして双方のビジネスのバランスを取りながらお互いのシナジー(相乗効果)を高め、さらに業容・業績を拡大してまいります。

【用語解説】

- ^{*1} **ビッグデータ** …… 大容量データのことです。インターネットの閲覧記録や各種購買情報、また「M2M(機械間通信)」等から収集された大量データの総称です。大量のデータを分析して傾向を見いだすことで新たな販売促進手法などに活用されております。
- ^{*2} **ストックビジネス** …… 継続して売上計上できる継続契約型ビジネスです。新規契約を獲得すればするだけ売上と収益が蓄積されます。当社グループでは情報処理サービスが該当します。
- ^{*3} **フロービジネス** …… 都度契約し納めて完結するビジネスです。当社グループではシステム開発サービスとシステム機器販売が該当します。

今後の業績の見通しについて

このような取り組みを継続し推進することで、当社グループにおける中期業績を次の様なイメージで計画しております。



最後になりましたが、引き続き、安定した高収益企業を目指しグループ一丸となって尽力してまいります。株主の皆様には変わらぬご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

これまで株主様向けアンケートはがきや個人投資家向け説明会でよくお問い合わせいただいたご質問に対してご説明させていただきます。

Q.1 アイネットの強みとは？

当社グループの強みは、右図の様に、システムの設計構築から運用、業務利用面まで全般にわたリワンストップでサポートできることです。高いセキュリティのデータセンター上で各種サービスを提供しております。お客様は、情報漏洩のリスクが軽減できると同時に開発、運用、業務などを別々の会社に発注した場合と比べ、引継ぎコストや手間が省け、窓口も一本化できます。



Q.2 アイネットの3つの事業方針とその狙いを教えてください。

エンドユーザー志向

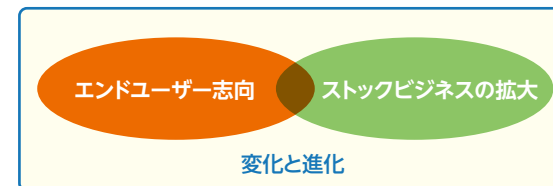
エンドユーザーとの直接契約を推進しています。直接お客様に接することで、課題を把握し解決策を提案することができます。更にお客様との信頼関係を構築することで、様々なサービスを提供することが可能となり多面的な販売に繋がられます。また、お客様のビジネスに直接携わることで、社員のモチベーション(意識・やりがい)も上がりノウハウも向上し、成長することができます。

変化と進化

エンドユーザー志向やストックビジネスの拡大を推進するためには、社員一人ひとりが変化し、ノウハウを蓄積して、次に生かしていくことが必要です。そのプロセスにおいて、社員一人ひとりが成長・進化し、会社が発展・成長していくのです。自ら進化することができる社員を増やし、彼らが活躍できる場を多く提供していきます。

ストックビジネスの拡大

ストックビジネスの拡大を積極的に図っています。このビジネスは、いわゆる継続契約型ビジネスであり、毎月継続して売上計上できます。したがって、新規契約を獲得すればするだけ売上と収益が蓄積され、経営基盤の安定に繋がります。また、一般的に先行投資が必要となりますが、予めシステム化対応しておくことで受注件数が増加してもあまり人数に依存しないため、一人当たりの売上・利益が増え、安定的な成長が見込めます。



Q.3 「クラウド」って何のことですか？

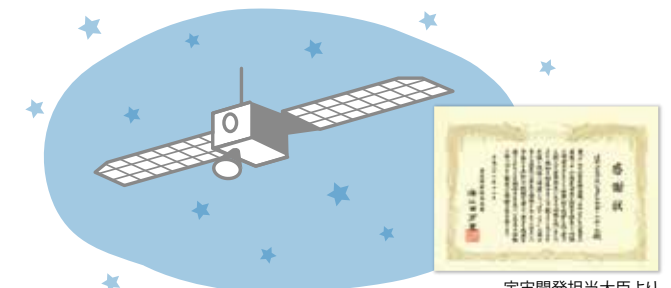
クラウド(クラウドコンピューティング)とはインターネットを介してデータセンターにあるソフトウェアやデータを利用することを言います。インターネットが雲の形であらわされたことから英語の「雲(Cloud)」と呼ばれています。当初は企業が業務用のコンピュータを減らし、コストを節約する目的でしたが、現在では様々なアプリケーションやビッグデータの活用等で市場規模が急激に拡大しています。なお国内プライベートクラウド市場は、2013年から2018年で3.7倍の1兆6026億円に成長すると予測しています(当社調べ)。

当社グループは、企業ニーズの拡大が進む「クラウドサービス」をさらに進化させ、ビッグデータ時代に対応した業種を超えて適用できるクラウドサービス「Dream Cloud®」の提供を開始し、ラインナップを拡充し更なる成長を目指しております。



Q.4 「アイネットの宇宙事業」はどんなことをしていますか？

当社グループの宇宙事業への取り組みは1977年に打ち上げの気象観測衛星「ひまわり-1号」から現在に至るまで37年間に及びます。これまでに小惑星探査機「はやぶさ」など多くの人工衛星のシステム設計、検査・試験、運用設計、評価解析および人工衛星からの画像データの処理ソフトや、打ち上げ管制の処理ソフトなど、数多くの実績があります。今後も我が国の宇宙開発事業に貢献してまいります。



宇宙開発担当大臣より
「はやぶさ」の帰還に際して頂いた感謝状

[損益の概要]

	前 第2四半期累計期間 (2013年4月1日から2013年9月30日まで)	当 第2四半期累計期間 (2014年4月1日から2014年9月30日まで)	増減額
売上高	11,135	11,141	+5
売上総利益	2,739	2,634	△104
営業利益	836	681	△155
経常利益	753	658	△95
四半期純利益	456	395	△61

[資産・負債の概要]

	前期末 (2014年3月31日現在)	当 第2四半期末 (2014年9月30日現在)	増減額
流動資産	7,645	7,506	△138
固定資産	16,869	17,057	188
流動負債・固定負債	13,942	13,069	△872
純資産	10,571	11,494	922
総資産	24,514	24,564	49

[キャッシュ・フローの概要]

	前 第2四半期累計期間 (2013年4月1日から2013年9月30日まで)	当 第2四半期累計期間 (2014年4月1日から2014年9月30日まで)	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	234	1,524	1,290
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,831	△172	1,659
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,607	△1,385	△2,992
現金及び現金同等物の期首残高	2,474	2,183	△291
現金及び現金同等物の期末残高	2,485	2,150	△334

株主の皆様に必要なIR情報を公開しております。
財務諸表の詳細はこちらでご確認ください。

www.inet.co.jp/ir/index.html

アイネット IR

[決算数値のポイント]

ポイント 1 一部契約終了に伴うコロケーションサービス(データセンターでのサーバ預かり)の減少などがあったものの、クラウドサービス等が伸長し5百万円(前年比0.1%増)となりました。

ポイント 2 今後のデータセンター需要に対応するために昨年竣工した第2データセンター2期棟の償却費用関連などの増加し、681百万円(前年比△155百万円)となりました。

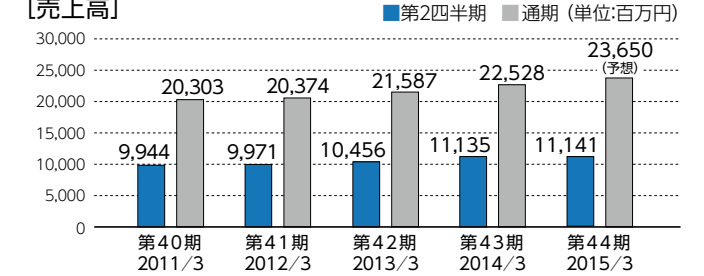
ポイント 3 データセンター建設により一時的に増加した借入金が1,059百万円減少(長期537百万円/短期522百万円)したことで負債合計が872百万円減少しました。

ポイント 4 内部留保および退職給付会計基準の改正により純資産が前年度末に比べ922百万円増加し、自己資本比率も45.8%となりました。

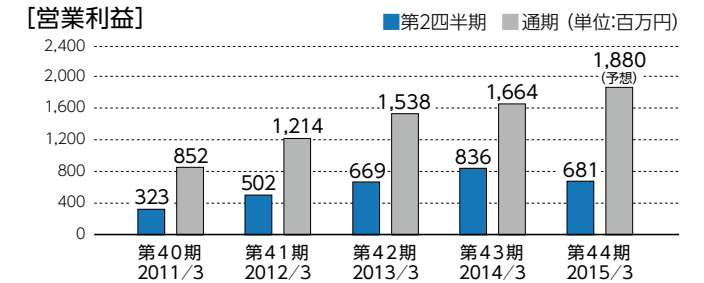
ポイント 5 (営業活動によるキャッシュ・フロー)
営業活動の結果により得られた資金は1,524百万円となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益の計上と減価償却による資金の内部留保によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)
財務活動により使用した資金は、1,385百万円となりました。これは主に借入金の返済(長期537百万円・短期522百万円)によるものです。

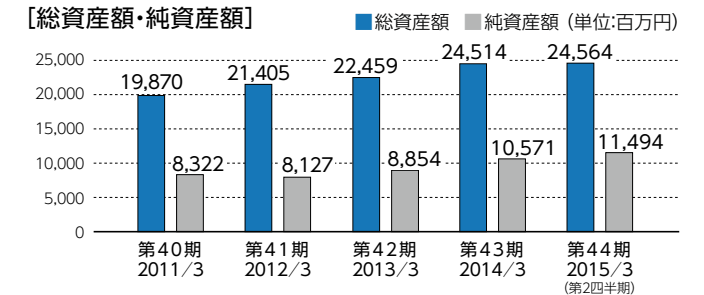
[売上高]



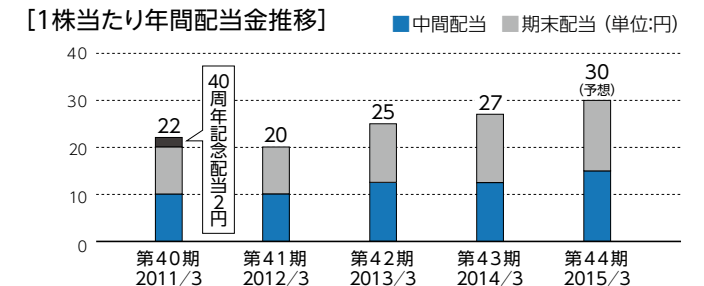
[営業利益]



[総資産額・純資産額]



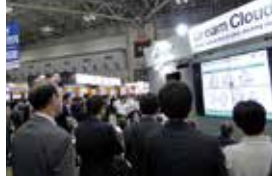
[1株当たり年間配当金推移]



主な活動をご報告いたします。

5月 「第5回クラウドコンピューティングEXPO春」に出展

5月14日～16日の3日間、東京ビックサイトで開催された『第5回クラウドコンピューティングEXPO春』に出展いたしました。この春新たに発表した各種クラウドサービスをはじめ、メーリングサービスなど、当社の様々なサービスについてデモンストレーションを交えながらご説明いたしました。80,000名を超える会場来場者数があり、当社プレゼンテーションへも多くの方が訪れ、大変熱心に耳を傾けてくださいました。今回、ご訪問いただいた方への今後の営業活動に注力してまいります。



7月 「Dream Cloud Seminar 2014 in 東京ミッドタウン」開催

7月3日に「ビッグデータ時代、新たな価値を生むクラウドサービス『Dream Cloud®』」と題した講演で、当社のクラウドサービス「Dream Cloud®」の全体像と、新サービスを含めた各種クラウドアプリケーションの紹介と今後の展望について具体的にご説明いたしました。当日は約700名の方にご来場いただき、大盛況のうちに終えることができました。



6月 定時株主総会と事業説明会



第43回定時株主総会を横浜ベイホテル 東急で開催いたしました。総会後の事業説明会では、社長の梶本より業績概要や今後の重点施策について説明を行い、株主の皆様にご理解を深めていただきました。

7月 個人投資家向け会社説明会

個人投資家向け会社説明会を東京・大阪・京都の3都市で開催いたしました。社長の梶本より当社グループの事業説明と成長への取り組みについて個人投資家の皆様に理解を深めていただきました。



9月 アイネット・データサービスに黒岩神奈川県知事が視察にいられました。



黒岩神奈川県知事が当社グループで障がい者雇用の取り組みを通じ「自立そして自律」を企業理念として推進するアイネット・データサービスを視察されました。障がいを持つ社員が仕事に自信を持って、明るく、いきいきと働いている様子をご覧いただきました。

HPもご覧ください。神奈川県HPに詳しく紹介されております。
[アイネット 黒岩神奈川県知事](#) [検索](#)

商号	株式会社アイネット/I-NET CORP.	役員	代表取締役会長	池田 典義	子会社	株式会社ISTソフトウェア
上場金融商品取扱所	東京証券取引所市場第一部(9600)	代表取締役社長	梶本 繁昌	www.ist-software.co.jp/	資本金	608百万円
本社	横浜市西区みなとみらい三丁目3番1号	専務取締役	田口 勉	事業内容	情報処理サービス	システム開発サービス
電話番号	(045)682-0800(代表)	常務取締役	鰐 淵 浩		システム機器販売	
URL	www.inet.co.jp/	常務取締役	大 嶋 均		株式会社アイネット・データサービス(特例子会社)	www.inet-d.co.jp/
設立	1971年4月22日	取締役	メ 野 和彦		資本金	9百万円
資本金	3,203,992,690円	取締役	佐 伯 友道		事業内容	情報処理サービス
従業員数	1,342名(連結)/898名(単独)	取締役	石 神 哲			
事業内容	情報処理サービス システム開発サービス システム機器販売	取締役	立 島 直記			
		常勤監査役	本 村 晴樹			
		監査役	大 橋 秀夫			
		監査役	本 合 紘			

特例子会社 「障害者の雇用の促進等に関する法律」に基づき、企業が障がい者の雇用に特別に配慮し設立した子会社で、一定の条件を満たしているとの厚生労働大臣の認定を受けた会社をいいます。

社会貢献活動

当社グループは、地域での雇用創出や開催イベントへの協賛、文化芸術振興への支援や災害支援を中心に積極的に社会貢献活動を行っております。

障がいのある方の自律を支援

当社グループは、障がいのある方が能力と適性に応じた職業に就労し、自律した生活を送ることができる社会の実現に向けた支援も社会貢献活動のひとつと考えております。その取り組みとして、障がい者雇用の促進を目的に株式会社アイネット・データサービスを設立し、障がいのある方が「自立・成長・自律」できるよう支援を続けております。



文化芸術振興への支援

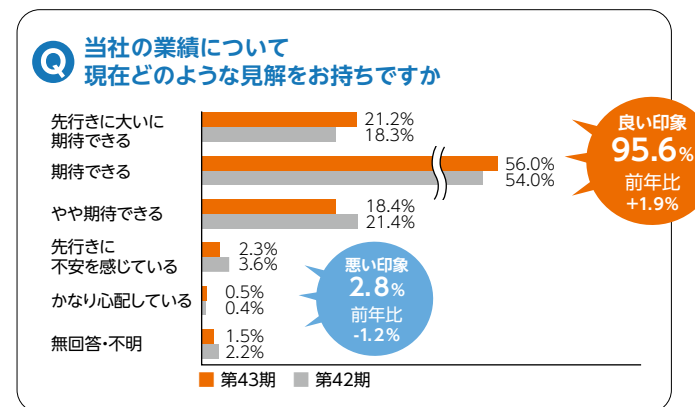
当社グループは、心豊かな活力ある地域社会の形成・発展に芸術文化の果たす役割が大きいためと考えております。その取り組みの一環としてブルーダル・サポーターズとして神奈川県フィルハーモニー管弦楽団の活動を支援しております。



アンケート結果のご報告

「株主様アンケートにご協力ありがとうございました」

第43期株主通信に同封いたしました株主アンケートに、391名の方からご回答をいただきました。その一部をご紹介します。



「先行きが大いに期待できる」から「やや期待できる」までをご回答いただいた割合は95.6%となりました。3期連続増収増益を達成し、営業利益で過去最高益を更新したことに加えて、トップインタビューを通じて成長への取り組みをご理解いただけた結果と考えております。

株主様からの貴重なご意見・ご要望は今後の経営並びにIR活動に生かしてまいります。

関心度上昇
前年比
+164名

良い印象
95.6%
前年比
+1.9%

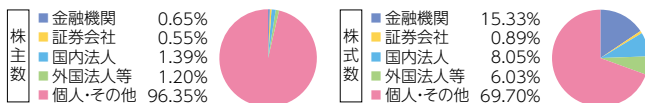
株式の状況 (2014年9月30日現在)

- 株 主 数 4,324名
- 発行可能株式総数 60,000,000株
- 発行済株式の総数 14,765,840株
- 大 株 主

株 主 名	持株数 (株)	持株比率 (%)
池 田 典 義	2,020,690	13.69
アイネット従業員持株会	1,371,615	9.30
北 川 淳 治	705,300	4.78
株式会社横浜銀行 (常任代理人資産管理サービス信託銀行株式会社)	643,000	4.36
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC/FIM/LUXEMBOURG FUNDS (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	520,000	3.52
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	345,400	2.34
有限会社エヌ・アンド・アイ	287,980	1.95
日本生命保険相互会社	250,000	1.69
三菱総研 D C S 株式会社	217,800	1.48
トッパン・フォームズ株式会社	211,000	1.43

※持株比率について… 自己株式を9,905株保有しておりますが、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別構成比



株式メモ

- 事業年度 4月1日～翌年3月31日
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日 定時株主総会・期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関
- 同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL 0120-232-711 (通話料無料)
- 上場証券取引所 東京証券取引所
- 公告の方法 電子公告により行います。
公告掲載URL
www.inet.co.jp/denshi-koukoku/
(ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じた際には、日本経済新聞に公告いたします。)

【ご注意】

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

配当金

当社は将来の資金需要に備え内部留保を充実しつつ、安定的な配当を継続して実施することを基本としています。

第44期
1株当たり
配当金 **30円** (計画)
(中間15円+期末15円)

株主優待制度のご案内

株主の皆様の日頃のご支援にお応えするとともに、当社株式の魅力を高めることを目的に実施しています。

対象株主様 毎年9月末日時点で1,000株以上保有いただいている株主様

優待内容 所有株式に応じて当社オリジナルQUOカードを年1回(12月上旬)お届けいたします。

社会への貢献 贈呈額の10%を別途、当社より障がい者支援団体等に寄付させていただきます。

オリジナル
QUOカード



贈呈の内容

1,000株以上 3,000株未満	1,000円
3,000株以上 5,000株未満	2,000円
5,000株以上	3,000円

更に3年以上継続保有の場合は、1,000円分のQUOカードを追加